

時にはシンプルに

岡山県 長安寺 副住職 久保泰道

息子が歩けるようになって間もなくのことです。ある日曜日、ヨチヨチ歩けるようになったばかりの息子を近くの小学校に連れて行きました。

生まれて初めて見た広い運動場。息子は目を輝かせながら右に左に、左に右に、自由に縦横無尽に運動場を歩き回りました。しばらくして少し疲れたのでしょうか。歩くのをやめたかと思うと地面に座り込み、さらには地面に寝そべり、そのまま側にあった木の枝で地面をキャンバスにして絵を描き始めました。

それを見て私は、息子は白い服を着ていたので、その服が泥で汚れてしまったら「汚れが落ちにくいので、困るな」と思いました。そして「服が汚れるよ」と息子に言おうとした瞬間、ふとこんな思いが頭の中をよぎりました。「私はいつから服が汚れることを、嫌うようになったのだろうか」と。

私自身は、小学校高学年くらいまでは服が汚れる事など気にもせず、泥だらけになって遊んでいました。というより、むしろ泥だらけになることを楽しんでいたと思います。しかし気づけば「そんな所で

寝そべったら、服が汚れるから」、「ああしたらこうなるから、こうしたらああなるから」と、今の事より先の事ばかり考える自分がいました。

小学校の校庭で息子が地面に寝そべり、楽しそうに絵を描いているのを見たとき、「服が汚れるから」と言わずそのまま見守りました。先の事や効率ばかり考えている自分が、ものすごくつまらなく思えたのです。息子の楽しそうな姿を見ると「昔はもっと自由だったな。色んなことがシンプルに楽しめていた」と思いました。大人になるにつれて忘れてしまっていた自由や、心の豊かさを、この時息子から教えてもらっているような気がしました。

私が服についた泥を「汚れ」と捉えたのに対し、息子は服についた泥を気にすることなく、自然と共に今、この瞬間をありのままに生きていくように感じました。あまり先のことばかり考え過ぎず、時にはシンプルにその時、その場を、楽しんでみるのもいいのではないのでしょうか。